

# 2030生物多様性枠組実現日本会議(J-GBF)第4回ビジネスフォーラム

## 【第二部】生物多様性に関するビジネスマッチング出展企業一覧

企業名	事業概要
<p>1</p> <p><a href="#">サンリット・シードリングス株式会社</a></p> 	<p>土壌や水中微生物の働きを可視化し、生態系・生物多様性を定量的に評価する技術を用いて、農林水産業や環境・インフラ関連の事業者への支援およびSDGsに関するコンサルティングサービスを提供しています。</p>
<p>2</p> <p><a href="#">サグリ株式会社</a></p> 	<p>サグリ株式会社は、化学肥料の高騰や耕作放棄地の増加、DX化の遅れといった農業の課題を、衛星データとAIによる「農地の見える化」で解決しています。また、カーボンクレジット創出にも取り組み、農林水産省の中小企業イノベーション創出推進事業にも採択されました。</p>
<p>3</p> <p><a href="#">fabula株式会社</a></p> 	<p>弊社は、100%食品廃棄物から新素材を開発する東大発のスタートアップです。食品廃棄物由来の新素材は最大でコンクリートの4倍の曲げ強度をもちながら、原料の色や質感、香りを保持しています。この技術で社会課題の解決に挑戦し、静脈産業におけるものづくりの価値を最大化します。</p>
<p>4</p> <p><a href="#">株式会社アルヌール</a></p> 	<p>微細藻類の培養装置とオペレーションノウハウを基に、バイオメディカル・ヘルスケア分野やCO2削減などの環境分野で研究・開発を行い、技術提供や関連商品販売を実施。また、「カギケノリ」を活用し、日本の畜産と漁業をつなぐ環境プロジェクト「<a href="#">Kaginowa</a>」を運営しています。</p>
<p>5</p> <p><a href="#">ハイパーアグリ株式会社</a></p>  <p>ハイパーアグリ株式会社</p>	<p>フィールドマイスターは、田んぼの水を電気分解し、酸化還元電位を調整して、作物の根が養分を効率よく吸収できる水を作る装置です。この水が根の活性を促進し、肥料の使用量削減や溶存酸素の増加を通じて生物多様性の向上、メタンガスの抑制に貢献します。生産者の収益性と環境保全を両立するこの技術を広めるには、ご賛同いただける企業の協力が必要です。</p>
<p>6</p> <p><a href="#">株式会社Aqua Fusion</a></p> 	<p>Aqua Fusionでは水中超音波を用いた魚体識別をコア技術とした水中可視化システムを提供しています。具体的には、漁船や調査船、定点観測ブイを用いた海洋生物観測システム、最適な給餌を実現する養殖生簀の尾数カウントシステム、ブルーカーボンにもつながる藻場評価システムなどを通じて海洋生態系の保全に貢献しています。</p>
<p>7</p> <p><a href="#">大栄工業株式会社</a></p> 	<p>農薬いらずのジャンボタニシ誘引剤 &amp; 捕獲器『スクミッチ®シリーズ』。スクミリングガイは、生物多様性を損失させる侵略的外来種です。水稻などを食害し、絶滅が危惧される希少な植物を食害します。卵には神経毒が含まれており、卵を食べる生き物がほぼいないため、適切な防除対策が必要です。</p>

	企業名	事業概要
8	<p><a href="#">PJP Eye株式会社</a></p> 	<p>PJP Eyeは2017年に仁科浩明によって設立され、社名は起業家としての経験から導き出した「情 (Passion)」「旅(Journey)」「追求(Pursue)」の頭文字に由来します。主力商品はエコフレンドリーな植物由来のカーボンを使用したCambrian-Batteryで、電池ソリューションを展開しており、さらにCO2排出権の創出や代行売買など「エネルギー・ソリューション」へに向けて拡大展開を進めております。</p>
9	<p><a href="#">DeepForest Techologies 株式会社</a></p> 	<p>ドローン画像を用いた世界初の樹種識別技術を開発した京大発のスタートアップ。一般的に販売されているドローンを活用して誰もが簡単に森林調査（樹種・サイズ・炭素蓄積量等）ができるソフトウェアを開発して、国内外に販売。森林調査業務や、Jクレジットの森林計測も手掛ける。</p>
10	<p><a href="#">株式会社環境総合リサーチ</a> <a href="#">株式会社CTIリード</a></p> 	<p>環境総合リサーチは、最新の設備と技術力を基盤に、産業や工業、自然環境に関する各種の環境調査、測定分析を行っており、その一環として環境DNAの分析も実施しています。CTIリードは、現地調査で野生生物の情報を取得することを主たる業務としています。陸域動植物の専門調査員、樹木医が多く所属しています。</p>
11	<p><a href="#">株式会社ムスカ</a></p> 	<p>国内に大量に有る畜糞や汚泥等の有機廃棄物をイエバエを利用して肥料や飼料に再資源化する処理技術を持ち、食料生産や社会全体の有機資源循環、環境負荷軽減を目指して研究開発を行っている。農林水産業の持続的な発展に寄与する事業の研究開発に取り組んでいます。</p>
12	<p><a href="#">森株式会社</a></p> 	<p>森株式会社は、生物多様性の保全と持続可能な発展を目指す東京大学発のスタートアップです。「ネイチャーポジティブ社会の実現」をビジョンに掲げ、学術的な知見をもとに、生態系モニタリングや生物多様性評価を行い、クライアントのニーズに応じたサービスを提供しています。</p>
13	<p><a href="#">クオнокロップ株式会社</a></p> 	<p>食農業界はサステナビリティに関する課題が多く、特に商品のエコスコアの可視化が難しい状況です。このため、一部の食材が淘汰される恐れがあります。Myエコものさしは、生物多様性などのエコ指標を多角的に可視化し、事業者の工夫を伝えることで付加価値の創出を支援します。</p>

	企業名	事業概要
14	<a href="#">合同会社シーベジタブル</a>  SEA VEGETABLE COMPANY	<p>合同会社シーベジタブルは、各地で激減する海藻の種苗生産に関する研究から、陸上及び海面での栽培によって量産し、社内外の料理人たちと連携して新たな食文化を開発・提案しています。海藻を通じて、海も人もすこやかな未来を育むべく活動しています。</p>
15	<a href="#">amu株式会社</a> 	<p>海洋プラスチックゴミの44.5%を占める廃棄漁網を全国の漁師から回収し、アップサイクル。廃漁網リサイクル素材ブランド「<a href="#">amuca</a>」を運営し、繊維やペレットに生まれ変わらせメーカーに販売、自社プロダクト開発を行います。また、製品の使用後は再回収してリサイクルすることで、「漁具から本当の意味でのサーキュラーエコミー」を実装させます。</p>
16	<a href="#">株式会社アクポニ</a> 	<p>アクアポニックスは、水耕栽培と養殖を掛け合わせた持続可能な循環型農業で、生産性と環境配慮を両立させます。野菜と魚の生産だけでなく、資源やエネルギー、人、情報の循環を実現できます。また、循環型ビジネスの一部として自社の強みに合わせてデザインすることで、より大きな価値を創出します。</p>
17	<a href="#">8thCAL株式会社</a> 	<p>8thCAL株式会社は、殺虫剤に依存する衛生管理を超え、予防重視の環境管理を実現します。啓蒙・教育・予防の3ステップを提唱し、分野を超えた協働を促進。「人と自然が共存できる、都市衛生の未来を創造します」というミッションを掲げ、地球と生態系に配慮した都市衛生管理の社会実装を目指しています。</p>
18	<a href="#">オーシャンリペア株式会社</a> 	<p>海の問題「磯焼け」の原因となるイスズミやアイゴの食害魚を有効活用するべく事業を展開しています。対象の魚は未利用魚であり、様々な手段で流通の創出を目指して、第一弾としてドッグフードを開発し販売中。</p>